

科 目 名	精神看護学概論	単位数	1	履修年次	30
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	1 年
科目の概要	人間の心の健康や発達について学ぶ。精神科医療の歴史を知り、精神障害者やその家族の思いを考える機会にする。社会保健福祉の制度を知り、社会における精神障害者について知る。				
学 習 目 標	1. 人間の心の発達と危機、ストレスについて理解できる。 2. 精神科医療の歴史と精神障害者を支える社会制度の概略を知ることができる。 3. 精神障害者や家族の思いを考えることができる。 4. 不安や葛藤を乗り越えていくための知を学習できる				
授業計画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 精神看護学とは 1) 精神障害とは（「生きにくさ」） 2) 精神の健康とは	講義	3H	専任教員	
	2. こころとは何か 1) 意識と認知、感情、学習と行動、知能、こころの理論 2) 人格と気質 3. 心理検査	講義 視聴覚教材	5H		
	4. フロイト-精神分析 5. 人格の発達に関する理論 1) ユング 2) 対人関係論 3) ほどよい母親 4) 愛着理論 5) 甘え	講義 グループワーク	3H		
	6. ストレスと健康の危機 1) ストレス理論 2) トラウマ 3) レジリエンス	講義 グループワーク	3H		
	7. 全体としての家族 1) システムとしての家族 2) 人間と集団	講義 事例検討	3H		
	8. 精神障害と治療に関わる社会の歴史と文化 1) 歴史 2) 治療の変化 3) ステigma 4) 処遇と人権	講義 グループワーク	5H		
	9. 精神障害と法制度 1) 法制度の意義 2) 精神保健福祉法 3) その他法制度	講義 グループワーク	4H		
	10. 精神看護における倫理		3H		
	筆記試験		1H		
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 (医学書院)				
参考文献	系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開 (医学書院)				
担当教員からのメッセージ 精神障害の学習だけでなく、どの人にもある「こころ」と「人格」について学習していきます。すべての看護学の土台となる基礎知識を習得しましょう。 授業は毎回事前課題があり、それをもとにグループでディスカッションや共有をしていきます。さまざまな考えを知っていきましょう。					

科 目 名	精神障害の症状と生きにくさ	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	主な精神障害について、症状、治療を学習する。また、その症状、治療に対しての看護を学習する。それらを学習するために、人間の心について、多様な見方、考え方も学習する。				
学 習 目 標	1. 「精神を病む」ことについて考えられる 2. 精神症状について理解できる 3. 主な精神疾患の症状、成因、治療、看護について理解できる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	専任教員	
	1. 精神を病むことと生きること 1) 疾患と病 2. 精神症状と状態論 1) 症状とは何か 2) 様々な精神症状	講義	3H		
	3. 精神障害の診断と分類 1) 診断と疾病分類 2) 精神科での治療	講義	2H		
	3) 統合失調症	講義 視聴覚教材 グループワーク	6H		
	4) 気分障害 レポート※	講義 視聴覚教材	5H		
	5) 神経症障害、ストレス関連障害および身体表現性障害、摂食障害	講義 視聴覚教材	3H		
	6) 精神作用物質使用による精神行動および行動の障害	講義 視聴覚教材	2H		
	7) 発達障害、パーソナリティ障害	講義 視聴覚教材 グループワーク	6H		
	4. リエゾン精神看護 1) 定義・役割・歴史 2) 活動	講義	2H		
	筆記試験	試験	1H		
評 価 方 法	① レポート 10 点※ ② 終講試験 90 点				
テ キ ス ト	・系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎 (医学書院) ・系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開 (医学書院)				
参 考 文 献	・統合失調症・気分障害を持つ人の生活と看護ケア (坂本三允著 中央法規)				
担当教員からのメッセージ 看護をおこなううえで必要となる「患者が抱えている問題」を見つける力を身につけるための科目です。精神看護学概論と心理学の復習をすると理解が深まります。					

科 目 名	精神障害者への看護	単位数	1	時 間 数	30
講 師 名	専任教員 北アルプス医療センターあづみ病院看護師	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	概論で学んだ理論を活用し、精神に障害を持つ人への看護を行う為の基本的な理解の仕方や障害者の苦悩を理解した援助技術と治療的関係を学習する。「生きにくさ」をかかえ社会生活を送る人々の現状とそれを支える人々の実際と考えかたを学ぶ。				
学 習 目 標	1. 精神障害者を理解する基本的考え方がわかる 2. 患者―看護師関係の基本が理解できる 3. 精神看護の役割が理解できる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	担当	
	1. 精神看護とは 1) 精神看護のケアの原則と方法	講義 事例・GW	2H	専任教員	
	2. 患者―看護師関係 1) 患者理解の考え方 2) 患者看護師関係を成立させる要素 3) 患者看護師の発展過程 4) 関係のアセスメント プロセスレコード	講義 DVD 視聴 GW	4H		
		ロールプレイ GW	5H		
	3. 精神看護で活用する技法（急性期・回復期・慢性期） 1) 統合失調症患者の看護 （1）急性期 （2）回復期初期 （3）社会復帰準備期 （4）社会生活維持期 （5）長期入院	講義 事例・GW	10H		
	2) 気分障害患者の看護 （1）躁状態 （2）うつ状態	講義 事例・GW	4H	看護師	
	3) 精神科特有の看護 安全を守る（行動制限・隔離・保護） 4) 緊急事態への対応 自殺・暴力・無断離院	講義	2H		
	5) 精神障害者の家族への看護 （1）患者家族の理解 （2）家族指導	講義	2H		
評 価 方 法	筆記試験			1H	
テ キ ス ト	系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開（医学書院） DVD「精神科実習」 DVD「べてるの家（それでも地域で暮らしたい・当事者研究）				
参考文献	自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード （長谷川雅美 著 日創研）				
担当教員からのメッセージ 自己理解から患者理解へのつながりや、患者―看護師関係の基礎を学びましょう。					

科 目 名	精神障害者の事例展開	単位数	1	時 間 数	15
講 師 名	専任教員	実務経験	有	履修年次	2 年
科目の概要	既習の精神疾患の症状・治療・看護の知識を使い理解し、問題点と援助の方向性を明確にし、看護目標・具体策を立案する。その過程で、精神症状・薬物療法・入院生活が患者に及ぼす影響などこれら「身体的側面」と、患者の成育歴・生活歴・言動からの患者や家族の思いなど「心理・社会的側面」についての理解を深める。				
学 習 目 標	1. 精神障害者の特徴を理解し、看護計画が立案できる 2. グループワークと発表会を通して、精神障害者の看護について理解ができる				
授 業 計 画	学習内容	授業方法	時間	専任教員	
	1. 知識確認テスト※1 2. 病像の情報整理とアセスメント	試験 個人ワーク グループワーク	3H		
	3. 生活像・社会像の情報整理とアセスメント ※オレム - アンダーウッドモデル使用	個人ワーク グループワーク	3H		
	4. 社会像の情報整理とアセスメント 5. 全体像・看護目標・具体策」の立案	個人ワーク グループワーク	2H		
	6. 「全体像・看護目標・具体策」の立案	グループワーク	3H		
	7. グループで考えた「全体像・看護目標・具体策」の発表	発表会	3H		
	筆記試験（※2）		1H		
評 価 方 法	・ 知識確認テスト：10 点（※1） ・ 筆記試験：90 点（※2）				
テ キ ス ト					
参 考 文 献	系統看護学講座 精神看護学[1] 精神看護の基礎（医学書院） 系統看護学講座 精神看護学[2] 精神看護の展開（医学書院）				
担当教員からのメッセージ 障害の特徴、発達段階、薬物療法の有害反応、生活行動を踏まえ、対象の看護を考えましょう。 まずは個人で考え、グループでディスカッションし考えを共有していきます。					